

誰もが自分らしく 幸せに生きるために

～ 人権尊重の精神を育む教育の推進 ～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



社会の急激な変化の中で、新たな人権問題が明らかになるとともに、日本固有の人権問題も依然として存在しています。これらを解決し、一人一人の人権が尊重される差別のない社会を実現するために、人権教育の果たす役割は益々重要になってきています。ここでは“人権教育”について、その目的や推進内容をふまえて考えてみましょう。

人権とは？

人権とは、人権の尊厳に基づく人間固有の権利であり、社会を構成するすべての人々が個人として生存と自由を確保し、社会において幸福な生活を営むために欠かすことのできない権利を意味しています。

人権教育の目的

すべての人々が互いの人権を尊重し、共に生きる社会を実現するため、人権尊重の精神の涵養^{[※1][※2]}を目的としています。

[※1] 涵養

水が自然に染み込むように、無理をしないでゆっくりと養い育てること

[※2] 人権尊重の精神の涵養

一人一人がその発達の段階に応じ、人権尊重の理念に対する理解を深め、これを着実に身に付けていくこと



人権教育の推進

人権教育の推進に当たっては、次の三つの内容を扱い、人権が尊重される雰囲気や環境を基盤に、学習者の豊かな人間性を育み、人権意識を高めていくことが大切になります。また、これらの内容は、それぞれに相互補完し合うものになります。

豊かな人間性に関すること

生命を尊重する心などの倫理観、他人を思いやる心、正義感や公正さを重んじる心、個性を認め合う心、他者との共生や異質なもののへの寛容性などを育てます。

人権意識に関すること

人権に関する知識や技能のほか、感性や人権感覚を含め、人権を尊重できる意識を高めます。

三つの内容

人権が尊重された雰囲気や環境に関すること

一人一人を大切にされた雰囲気や環境（言語環境、学習環境等）をつくります。

人権尊重の精神の涵養

考えよう 様々な人権問題

私たちが、生きる現代社会には、様々な人権問題が存在しています。これらの問題を解決し、すべての人の人権が尊重された社会を実現するための第一歩は、私たち一人一人が正しく理解することです。

同和問題	子ども	高齢者	障害者
日本社会の歴史の過程で形づくられた身分差別により、同和地区と呼ばれる特定の地域出身であることやそこに住んでいることを理由に、長年にわたり差別を受けてきた人々が、今も結婚や就職の際に差別を受ける問題などがあります。	学校では、いじめや暴力、不登校、教師による体罰などの問題があり、家庭では、親から虐待を受けるなどの問題があります。日本は1994年に「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」を批准し、子どもの生命と人権を守ることに取り組んでいます。	身体や精神面のおとろえを理由に、高齢者をのけ者にしたたり、邪魔者扱いしたりするなどの問題があります。また、就職に際して差別されたり、介護の際に身体的・心理的虐待が行われたりする問題などもあります。	障害があることを理由に、就職に際して差別される問題やアパート・マンションなどへの入居を拒否される問題、施設における虐待などの問題があります。
女性	外国人	HIV感染者・ハチン病患者及び元患者	犯罪被害者とその家族
「男は仕事、女は家庭」といった男女の役割を決めつける考え方が今も根強くあり、社会生活の様々な場面で、女性が不利益を受けるなどの問題があります。また、セクシャル・ハラスメント（性的嫌がらせ）や夫・交際相手などから暴力（※DV、デートDV）を受けるなどの問題もあります。	言葉や生活習慣等の違いから、入居や入店を拒否されたり、就職に際して差別されたりするなどの問題があります。また、一部の国や民族あるいは特定の国籍の外国人に向けて憎しみをあおるような差別的言動（ヘイトスピーチ）が行われるなどの問題があります。	不正確な知識や思いこみによってHIV感染者やハチン病患者等への偏見や差別意識が生まれ、患者・元患者やその家族が日常生活や職場などで差別を受けるなどの問題があります。現在、 <u>新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大する中、感染者やその家族、医療従事者などが差別されるケースも発生しています。</u>	犯罪被害者やその家族は、事件によって命を奪われるなどの直接的な被害のほかに、興味本位のうわさなどで傷つけられたり、行き過ぎた報道でプライバシーが侵害されたりするなど、二次的な被害を受けることがあります。
インターネットによる人権侵害	災害に伴う人権問題	アイヌの人々	刑を終えて出所した人
自分の名前を明らかにせず、不特定多数の人に自由に情報を公開できる特性が悪用され、悪口が書き込まれたり、プライバシーが侵害されたりするなどの問題があります。	福島第一原子力発電所の事故では、被災者に対する偏見や差別、避難した子どもたちへのいじめなどの問題が発生しました。また、災害発生時の避難所では、プライバシーの確保の問題や高齢者や障害者などがより一層厳しい状況に置かれるという問題があります。	北海道を中心に、昔から日本に住んでいたアイヌの人々は、独自の文化や伝統を築き上げてきました。しかし、これらに対する理解不足から、今なお結婚や就職に際して差別が残るなどの問題があります。	刑を終えて出所した人には本人に更生の意欲があっても、周囲の偏見や差別意識によって就職を断られたり、アパート、マンションなどへの入居を拒否されたりするなど、社会への復帰が困難となる場合があります。
性的指向・性同一性障害者（LGBT）にかかわる人権問題	ホームレス等生活困窮者にかかわる人権問題	北朝鮮当局による拉致問題等	【参考】
性的指向とは、恋愛の対象がどこに向かうかをいい、異性以外にも同性や両性に向かうなど人によって様々です。また、「体の性」と「心の性」が一致しない性同一性障害のある人もいます。こうしたことへの理解の不足から偏見の目で見られたり、差別を受けたりするなどの問題があります。	経済的事情等様々な理由から、公園や道路などでの生活が余儀なくされている人々がおり、こうした人々が嫌がらせや暴行を受ける問題があります。また、生活の困窮のために社会とのつながりが薄れ、自ら助けを求めることができないなどの問題があります。	1970年代～80年代にかけて、北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）当局によって日本人が拉致された問題です。日本政府は、これまでに17名（2002年に帰国した5名を含む）を拉致被害者として認定しています。	「栃木県人権施策推進基本計画（2016～2025）」栃木県平成28年3月「人権について考える～人権って何だろう？～」栃木県平成30年10月 ※DV（Domestic Violence）（ドメスティック・バイオレンス）の略で、配偶者からの暴力のことです。また、デートDVとは交際相手など親密な関係にある人（配偶者を除く）からの暴力のことです。

